

第2回学ぶ喜び・ESD連続公開講座 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

◇開催日時 2020年10月1日(木)19時~20時30分

◇方法 ZOOMを用いたオンライン講演会

◇参加者数 36名

◇内容

「ESDー世界遺産教育の基本」 講師：奈良教育大学名誉教授 田淵 五十生氏

1. そもそも世界遺産とは？世界遺産誕生の経緯
2. 複合遺産の紹介 マチュピチュ ウルルカタジュタ
3. 危機遺産とその原因 紛争、密漁、過観光
4. 「石見銀財遺跡とその文化的景観」の持つ意味
5. 世界遺産「パラヌイ」の示唆するもの

1. そもそも世界遺産とは

アブシンベル神殿(ラムセス2世)がナセル大統領による近代化のためダムのために水没する
エジプトだけの宝ではない、人類全体の宝だ

工学エンジニア・ヨースタ・パッション(スウェーデン)27歳の時に工事を計画する。

イタリアの石工職人・ドイツの機械・フランスの輸送隊がアブシンベル神殿の移設

世界中の協力・募金による成功を祝して、1972年 世界遺産条約の成立

「全世界は遺跡の存続を求める権利を持っています」

「世界遺産基金」の創設 SDGsの目標17(グローバルなパートナーシップ)

自国では修復できない貴重な遺跡の救済: アンコールワット、ボロブドール

▼日本は20年遅れて世界遺産条約に加盟

文化財保護法があった(独自の法律で文化財を保護できる)

国際協力への意識が低かった。経済中心だった

2. 複合遺産 文化遺産・自然遺産の2つの選考基準をもつ 39件

(1) マチュピチュの歴史保護区 インカの空中都市(3000m~4000m.)

ビルハム・ビンガムトンが発見

霧の中に隠れている

征服者 フランシスコ・ピサロ + 感染症(天然痘)国民の3/4が亡くなった)

段々畑(アンディオス)気温差で色々な作物が栽培できる → アンデス山脈

ジャガイモ・サツマイモ・トウモロコシ・カボチャ・トマト・ピーマン・トウガラシ・メロン

大航海時代に世界にもたらされた

(2) ウルル・カタジュタ(旧エアーズロック) オーストラリア大陸の赤い心臓

国際先住民年 先住民の立場からみる

先住民の文化を認めた

高さ300メートル、一枚岩)周囲は砂漠だが、影のところに灌木が茂った

アボリジニがもつ自然を大切にする文化が認められた(自然と共生する文化)

「盗まれた世代」原住民からアボリジニの言葉を奪う:英語しかできない

アボリジニは1万2000年前にオーストラリアに移動し、文化の発達から切り離された
無土器文化 優れた狩猟用具 狩猟採集段階でヨーロッパ人と出会う
奴隷とされた 子どもたちは施設に収容された

シドニーオリンピックの時に、キャシー・フレードマン アナング族の旗とオーストラリアの旗を
持ってウイニングランをしたが、アボリジニ虐待の歴史は、まだ、オーストラリアの人たちも知ら
れていなかった。「自分たちの過ちを記憶しない認めない民族には未来はない」

3. 危機遺産とその原因

戦闘・紛争 平和でなければ世界遺産も消滅する
密漁 多くの自然公園で絶滅危惧種が危機遺産になっている
過観光 静かな風情が失われる

(1) シリア・パルミラ遺跡：戦闘・紛争

IS 過激派のテロにより破壊

(2) コンゴの5つの国立公園が危機遺産に

ゾウの牙 中国・日本に輸出 ワシントン条約により禁止 しかしヤミでの取引がつづく
サイ：ガランバ国立公園 商業的密漁

(3) 京都・嵯峨野 過観光によって危機に陥っている

4. 「石見銀山遺跡とその文化的景観」の意味

「がっかり遺産」と言われるけれども、本当は貴重な意味を持つ。

「文化的景観」：遺跡を守る自然環境への評価（燃料である木炭を得るために森林を破壊しがち）
炭方六ヶ村による森林供給（クリの木） 循環型自然開発（20～30年）

ポトシ銀山との比較（ボリビア） 森林を破壊し、環境破壊してしまった

精錬法・灰吹法（朝鮮から伝わった最新技術）

銀財遺跡が完全の保全された世界遺産

5. 世界遺産ラパヌイ（旧イースター島）

ポリネシアトライアングル 約900年前あたりに到達

亜熱帯性の樹林帯 豊かな草原 土壌環境 高度な文明 モアイ像の建設

火山 凝灰岩（やわらかいので細工しやすかった）

今は木が生えていない

奴隷狩り 人口が111人になっていた

- ・無制限な森林伐採
- ・枯渇する資源
- ・温暖化の進行 気候変動 耕作地の減少
- ・地球環境の危機
- ・SDGsを達成しなければ77億人の地球がイースター化するおそれ
- ・コロナ禍より恐ろしい